

ほむ・ほむ通信

No.20
[早春号]

グループ ほむ・ほむ

コープぎふ

「みんなで話し合い、楽しく活動」



Partnership

生協のユニセフ活動・18

コープぎふは、本部の他、岐阜県全域をエリアとして11の配送所と5つの店舗を有する組合員15万人の生協です。

毎年秋に開催される県下最大のイベント「岐阜県農業フェスティバル」でユニセフコーナーを設け、募金とカード販売を行っています。11月には共同購入でのユニセフグッズの企画に合わせ、注文システムでの募金を実施します。

他にも毎年実施している活動として、ハンド・イン・ハンド、お年玉募金、カレンダー募金があります。ハンド・イン・ハンドは、12月23日の一斉行動日を中心に学校など他の団体と県内各地で実施します。お年玉募金は、年内に案内チラシ、年明けに募金袋を配布し、あわせて注文システムでも募金を募り、参加しやすい方法を選択してもらいます。カレンダー募金は、コープぎふのすべての店舗で実施しています。「ここに来ればカードが買える」「1年間に貯めた小銭です」「カレンダーはいつもここで買っています」と訪れる人も多く、定着しています。

2002年は、9月に県内3か所でアフガニスタン写真展を開催しました。高山市では、アフガニスタンを訪れた組合員の講演会を、岐阜市では高校生も交えて実行委員

会を結成し話し合いながら平和について考えるフェスティバルをともに開催し、大垣市でも高校生が訪れるなど、ユニセフと生協をアピールすることができました。

これらの活動は、組合員からの「こんなことができないかな」の声に答えて進めてきました。そこから、着ぐるみでハンド・イン・ハンド、小豆粥や生姜湯をふるまいながらのカレンダー募金など、楽しい活動が広がっています。

先日、日本ユニセフ協会から職員の方がお見えになり、日頃ユニセフ活動に携わっている組合員や職員向けに学習会が開かれました。ほとんど全員が初めてのワークショップに取り組み、話し合いながら楽しく学習できることを知りました。

次に取り組むことは、ワークショップを使った楽しみながらの催しと、それを推し進める人のための学習会だと意見が一致し、今後も引き続き積極的にユニセフの活動を広げていきたいと思っています。

＜藤森＞

●この記事に関するお問い合わせは…

コープぎふ 組織・広報室 担当／丹羽 樹さん

TEL 0583-70-6873/FAX 0583-70-6860

特 集

UNICEF
HAND
IN
HAND

今年も全国各地で募金活動が行われました

1979年12月31日、第1回のハンド・イン・ハンドが全国一斉に行われました。この年は国際児童年であり、日本でも開発途上国への関心、ユニセフへの協力の輪が広がった年です。日本生協連は、「バケツ一杯の水を送ろう」と全国の組合員に呼びかけました。これをきっかけにユニセフ活動に参加した生協も多いようです。

市民がボランティアとして参加する（学校で、職場で、家庭で、そして街頭で）募金活動の原点ともいえるハン

ド・イン・ハンドも24回。生協ではお年玉募金という伝統的な方法や、OCR用紙への記入による募金などありますが、実際に呼びかけ、募金箱に入れていただく実感も大切ではないかと思います。一般の人にユニセフを知ってもらう広報の効果もあり、地域で他の団体と協力して活動する良い機会にもなります。また、子どもと一緒に街頭募金に立つことで、子どもたちもきっと何かを感じてくれるのではないのでしょうか。

<山本>

ハンド・イン・ハンド中央大会

2002年12月23日

東京・恵比寿ガーデンプレイス



クリスマスの装い華やかな会場で多くの人々がにぎわう中、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使をはじめ、タレントの石田純一さんや花田勝さん（元横綱 若乃花）他多くの方が街頭募金にご協力くださいました。聖歌隊やアカペラグループの歌声も会場に華をそえました。都内の小学生、ボーイスカウトやガールスカウト、市民ボランティアの方々の活躍もあり、492,828円の募金が集まりました。

コープふくしま

コープふくしまでは、毎月15日を「コープの日」としています。毎年12月の「コープの日」には全店でハンド・イン・ハンド募金に取り組み、今年で6回目。県内14店舗ではそれぞれ工夫を凝らし、グッズ販売、ハンドベルの演奏、おしるこコーナーなど、報告を聞くのも楽しそうな催しを開催しました。また、市内の購買生協、医療生協、学校生協などユニセフ推進会（ユニセフ推進会ができて10年になります。年に4回会合があり、最近では県支部設立にむけて話し合っています）のメンバーである6生協との合同行事として、駅前募金も実施しています。今年は日曜日に重なり、お天気もよかったので駅前の募金額は昨年より2倍。総合学習などでユニセフを知ったのでしょうか、小学生からの募金が多かったです。

ハンド・イン・ハンドってなに？

ハンド・イン・ハンドは、国際児童年の1979年12月31日に、「子どもたちのために手をつなごう」という呼びかけではじまりました。毎年12月はハンド・イン・ハンド月間として、全国各地のボランティアの方々が、学校や職場、家庭での募金、街頭募金など、さまざまな方法で参加しています。2002年のテーマは予防接種。ハンド・イン・ハンドの募金は、予防接種で防ぐことのできる病気で亡くなっている百数十万人の子どものために使われます。



三重県民生協

コープなばり店では、毎年店舗の開店記念月にお祭りを開催しています。そのコーナーの一角にユニセフが登場したのは4年前から。去年までは駐車場での実施でしたが、改装の関係で、今年は初めて店舗内レジ近くに机を並べての呼びかけとなりました。「募金の使われ方はよくわからないし、説明しにくいけれど、ハンド・イン・ハンドはその年のテーマがはっきりしていていいですね。今年は予防注射の訴えをテープに吹き込んで、前日と当日の2日間、店内で流しました」。店内募金ならではのアイデアです。ユニセフカードの販売や缶バッジ作り（1つ100円、半分は募金に）もあわせて行い、こちらも好評でした。

コープしが

地図をながめて、県内の10か所を募金場所を選びました。コープのお店は県南部が中心なので、スーパーなどの店頭使用をお願いしています。日時・場所が決まると、各地域で組合員に呼びかけ、実施します。10か所もあるとボランティアを募るのに苦労しますが、逆に年末の恒例行事と毎年楽しみに待っていてくださる方もいます。それぞれの地域でリーダーが育って、自発的な活動になってくれたらと思います。募金活動は、生協の枠を超えて地域の学校や子ども会などとも協力して発信できる、良いチャンスです。毎年続けて実施している成果があって、今年は設定日以外にも自分たちで日を決めて実施したところもありました。

命を守る一滴 予防接種を世界の子どもに



一人ひとりが手を取りあうことで、多くの子どもたちの命を守ることができるのです。

「HIV/エイズの危機と子どもたち」



エジプト HIV/エイズ学習会のセッションでポスターを指して解説する青年

© unicef

HIV/エイズ問題の現状とユニセフの取り組み

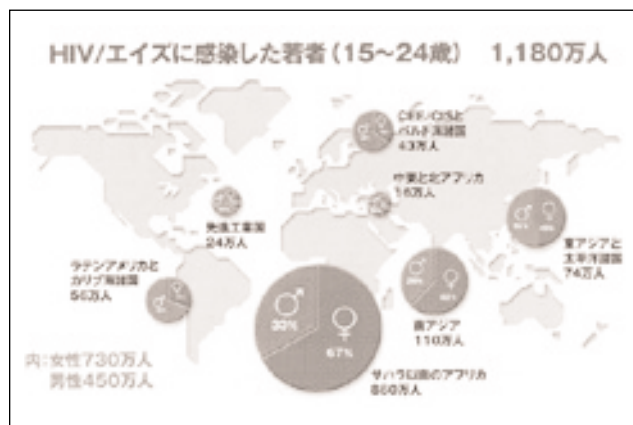
1980年代の初めにHIV/エイズが報告されてから、約20年。世界中でHIV/エイズに感染している人は爆発的に増え、2002年末には推定で約4,200万人（UNAIDS/WHOによる）といわれています。特にサハラ以南のアフリカ地域に、世界全体の感染者の約70%、エイズ孤児の90%が集中しています。アジア各地における拡大も重大な事態を迎えています。中国、インド、インドネシアなど人口の多い国では、感染者の急増を防ぐために早急な対応策が求められています。

感染者の90%以上が開発途上国の人です。貧困が根底にあり、性的搾取、誤解や偏見をはじめ、若者の知識不足も蔓延を広げる要因となっています。新たに感染した人の半分以上が15～24歳の若者で、10代の少女や若い女性の感染が多くなっているのも見逃せない事実です。

働き盛りの年齢層を奪い、家庭、地域社会を崩壊させるHIV/エイズ問題。孤児たちは教育や医療や栄養を受けられず、健やかに育つための機会を奪われ、虐待や搾取にあう危険性も高くなっています。

HIV/エイズと闘う

ユニセフは、2001年12月に発表した中期戦略計画で、今後4年間に取り組むべき5つの優先課題のひとつとして、「HIV/エイズと闘う」を掲げています。具体的な対策として、母子感染の予防、若者への予防教育プログラム、エイズ孤児やエイズになった子どもの保護やケアなどを実施しています。



"Young People and HIV/AIDS, Opportunity in Crisis" UNICEF, July 2002
 "Report on the global HIV/AIDS epidemic, 2002" UNAIDS, July 2002

スワジランドでの取り組み

アフリカの小さな国、スワジランドでも、HIV/エイズ問題が深刻化しています。スワジランドのユニセフ事務所は、この問題を緊急事態として対応すべきか、根本的原因の解決から取り組むか、悩みを抱えています。しかし、緊急事態が何年も続きそうなのが現状だとか。そこで行政やNGOの協力を得て、新しく「子どもの権利のためのコミュニティ・アクション」というプロジェクトをスタートさせました。このプロジェクトは、伝統的な地域組織をバックアップし、必要な指導や支援を提供するとともに、若者に主体的な参加を呼びかけ、現状と長期的な問題に対応できる基盤を整えていくことを目的として行われています。

タンザニア
少女に薬を与える女性カウンセラー



© unicef

HIV/エイズ問題は、決して対岸の火事ではありません。日本でも感染者が増え続けています。多くの人にHIV/エイズ問題の重大さと解決のための取り組みを知ってもらえたらと思います。

<尾澤>

「HIV/エイズの危機と子どもたち」 写真展 貸出セットのご案内

日本ユニセフ協会では、ユニセフ活動をご支援いただいている皆様にご利用いただけるよう、「HIV/エイズの危機と子どもたち」写真展開催のための貸出セットを作成しました。詳しくは下記までお問い合わせください。

- 名 称 「HIV/エイズの危機と子どもたち」
- 主 催 各地の実施団体
(財)日本ユニセフ協会
- 開催期間 原則として14日以内
- 展 示 物
 - 第1部 パネル25枚(A1~A3サイズ)
 - 第2部 パネル23枚(A1~A3サイズ)
 - HIV/エイズ啓発のための、ポスター・教材・マニュアル・報告レポートなど
- 開催経費 展示物の貸し出しは無料です。開催に伴う経費(会場使用料、内装費、人件費)と返却時の送料は、実施団体のご負担となります。

●お問い合わせは…

(財)日本ユニセフ協会 協力事業部 林田
TEL 03-5789-2012/FAX 03-5789-2032
E-mail yhayashida@unicef.or.jp

見てきました 写真展「HIV/エイズの危機と子どもたち」



2002年12月6日から10日までさいたま市のDOMショッピングセンターで開催された写真展に行ってきました。ショッピングセンターに入ってすぐの通路中央に設けられた展示スペースには、買い物途中に足を止め、真剣な表情で写真に見入る若者、親子連れの姿が見られました。



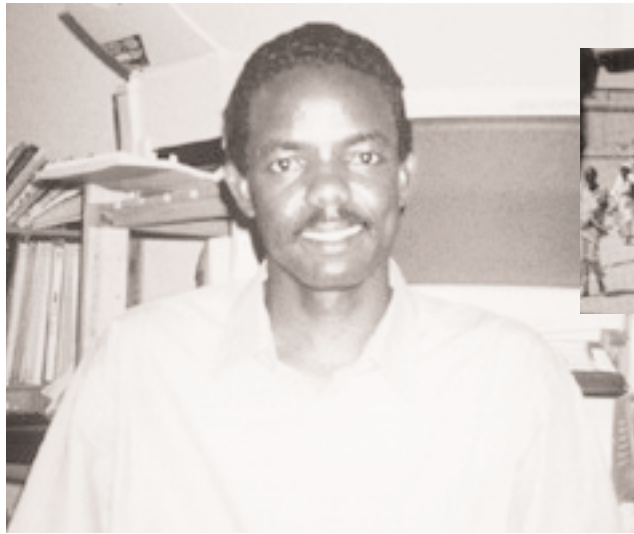
第1部「アジアのエイズ」では、エイズを発病し余命いくばくかの男性、プノンペンのスラム街で暮らす少女たちの写真に胸が痛みました。第2部「HIV/エイズと闘う世界」では「危機の中のチャンス」としてユニセフの取り組みを紹介しています。明るく前向きな若者たちの表情に希望の光を感じることができました。

この写真展の主催は(財)日本ユニセフ協会埼玉県支部。支部に登録しているボランティアの方が交代で受付を担当していました。

<尾澤>



雄大なアフリカの大地に豊かなみのりを



カルトウム市街



アフリカ大陸

「日本は安全で、人々もやさしいですね。スーダンでもたくさんの野生動物や人々の温かい歓迎が皆さんを迎えます。ぜひ一度いらしてください」と話すバダウィさん。

日本の大学で農業を勉強しています バダウィ・ガジ・ハミドさん

バダウィさんのこと教えて！

2年前に鳥取大学大学院連合農学研究科の留学生として来日しました。スーダンでは大学で農業について教えていました。生まれたところは、首都カルトウムの少し南のkustiというところ。姉妹4人の大家族で育ちました。小学校1年生のときからはじめたサッカーが大好きで、日本に来た今でも楽しんでいます。スーダンでは、子どもたちのほとんどがサッカーをしています。

イスラム教徒のバダウィさんにとってラマダン（断食）は神聖ですばらしいものですが、精神のトレーニングが必要で難しいものなのだそうです。スーダンではラマダンのすぐ後とラマダンの2か月後にラマダンを祝う祭りがあり、食べ物を売っているお店がたくさん並び、家族や友だちと出かけていくということです。

スーダンでは労働力の80%が農業に従事していて、民間事業も農業を中心に成り立っているとのこと。バダウィさんは、日本で最先端の農業を勉強して、スーダンの国民の役に立ちたいと思っているのです。

スーダンってどんな国？

スーダンはアフリカ最大、約250万平方キロメートルの面積を有する国で、国境は9つもの国に接しています。1956年にイギリスから独立しました。お隣の国エジプトはピラミッドで有名ですが、スーダンにもたくさんのピラミッドがあります。青ナイルと白ナイルが合流し、

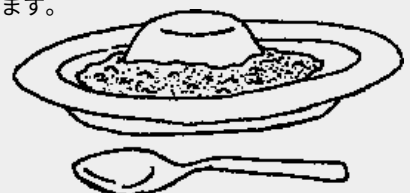
ナイル川となる地点のことをアラビア語で「ムグラン」といい、「歴史上で一番長いキス」として人々に知られています。首都カルトウムはそこに位置しています。

公用語はアラビア語で、多くの地方の言語がありますが、教育を受けた人々は英語も話します。国民の約70%がイスラム教徒です。北部と南部の古くからの確執は長年にわたり内戦を引き起こし、現在でも外国からの援助に大きく依存せざるを得ない状況にあります。 <松本>

ヨーグルトカレー？ アシーダ

— バダウィさんにおそわりました —

- ①鍋にプレーンヨーグルトと小麦粉と水を入れて火にかけ、粘りけが出るまでかき混ぜます。ボール状の器に入れて冷ますと、ゼリーよりも少し固めの粘りのあるものができあがります。味はヨーグルトの酸味のみ。
- ②プレーンヨーグルトとハラールミート（ひき肉）にオクラドライパウダーと数種類のスパイスを入れて煮、「ムラッハ」といわれるカレーのようなものを作ります。味はいわゆるカレー味でさらさらとしています。
- ③皿の真ん中に器の形に固まった①を盛り、まわりにムラッハをかけます。



アフガニスタン緊急・復興支援情報



小学校102校の校舎の修復を行い、子ども20万4,300人の教育環境を改善し、特に寒さの厳しい地域のテントによる簡易学校には暖房設備を設置しました。また、教育行政を向上するため、教育担当官600人に対して、教育資材の配布や、マネジメント・企画立案に関する研修を行いました。

この他にもユニセフは、女性のための識字教育、下痢による病気の予防、安全な水とトイレの提供、地雷は不発弾による事故を防ぐための活動などを行っています。

ユニセフが支援を行うための必要資金の26%にあたる5億200万米ドルが未だ不足しています。日本ユニセフ協会では、アフガニスタンにおけるユニセフの緊急援助・復興支援を支えるアフガン募金の受付を引き続き行っています。皆様のご協力をお願いいたします。

アフガニスタンでは、寒さの厳しい冬の到来、長引く干ばつに加えて、今なお各地で頻発する武力衝突により、多くの子どもと女性が危機にさらされており、この冬150万人が危機に瀕すると予測されます。ユニセフはこれまで、4万世帯に冬服、生活必需品セット、調理器具を配布し、20万人の子どもに毛布を提供しました。

多くの難民が帰還し、学校に戻る子どもが急増する中、ユニセフは300万人以上の子どもが教育を受けられるように支援しています。2002年3月に提供した178万人分の教材に加えて9月には新たに小学生120万人分、中学生30万人分の教材と、教員3万人分の教具を提供しました。

郵便振替 00110-5-79500

加入者名義：財団法人日本ユニセフ協会

※通信欄に「アフガン難民」とご記入ください

※当協会への募金は寄付金控除の対象となります
※送金手数料は免除されます

インターネットからも募金を受け付けています
<http://www.unicef.or.jp>

募金送付先

もうお読みになりましたか？

「あの日のことを かきました」

「国境なきアーティストたち」代表 エクトル・シエラ=著



講談社刊／1,500
(財)日本ユニセフ協会推薦図書
お近くの書店でお求めください。

今も子どもたちの心に焼き付いている、「あの日」の悲しい出来事が悲痛な叫びとなって伝わってきます。真っ白だったツインタワーは真っ黒に塗りつぶされています。目の前で殺された父と兄を描いた少年の絵もあります。黒い太陽を描いた子どもたちは何を見、どんな体験をしたのでしょうか。

日本に住む1人の外国人青年(著者)が、紛争地の子どもたちをなぐさめようと、折り紙やだるまを使いながら交流を深め、絵を描くことによって心の解放の手伝いをしています。そこで結びつけられたニューヨークとアフガニスタンの子どもたちの絵が63頁の絵本になり、昨年9月に発売されました。

「あの日」から1年が過ぎましたが、子どもたちの心が安らぐことはありません。絵の中では今も真っ白なツインタワーがそびえ、バーミアンの大仏が立っています。子どもたちの心の中に「夢」や「希望」があることも伝えている絵本です。 <浜崎>



「わたしのまち」 ザクリア/11歳/バーミアン
バーミアンの子どもたちの絵の中では、大仏はまだ立っていて、顔もちゃんとありました。



ユニセフ こんなこと

22:00 就寝。ココナッツのような枕。
でも気にしない。おやすみなさ〜い。

◀ラオスの現地事務所

20:45 私の2人のスタッフはアルコールを飲まないので明日の会議について話すエネルギーがある。明日は最終日のため彼らは成功する計画を作りたい。2人のラオス女性連盟のスタッフも参加。実のある打ち合わせ。明日に向けて準備万端。

20:30 ようやく終わりの時間。最後の乾杯とスピーチはとても素敵だった。幸せを感じる(多分それはラオラオだから…)。

18:00 サラワン県ラオス女性連盟の代表に招かれ夕食に。とてもお腹がすいている。私が肉を食べないことを憶えていてくれて、たくさんのラオラオ(米から作られているラオスのウイスキー)で乾杯。昼食をとっていないため、すぐに顔が赤くなる。副県知事が同じテーブルに座り、何回も乾杯をする。

17:15 会議終了。ゲストハウスまで車で移動。部屋には天井に扇風機とトイレがあるが、シーツは汚い。妻に自分のシーツを持っていくようにいわれて良かった。シャワーを浴びる。水は冷たくて気持ち良い。

16:45 グループのプレゼンテーションが修了。今度は自分が話す番だ。ここにいるすべての重要な人々について最初にふれた後、スタッフより要請されているポイントを挙げる。英語で話し、スタッフがラオス語に通訳する。質問はあまりない。

15:50 会議再開。各小グループが話し合いの結果を全体に報告する。私のスタッフが通訳。

15:30 コーヒーブレイク。最初の2日間の問題を説明してもらうために、スタッフに手短かに話を聞く。今日の終わりに明確な質問をするためのスピーチをしなければいけない。話し合い中に多くの相手方の人間が来て話を中断し、サラワン県へ来たことを歓迎してくれる。相手方と親しく接することができるのは良いことだ。



クリフ・マイヤーズ
アメリカで教師をした後、1991年にユニセフネパール事務所へ。6年の勤務後ユニセフラオス事務所に移動し、教育担当チーフとして支援に携わる。

15:15 サラワン県到着。良い道路。女性と子どもの開発プロジェクトに責任のある54人の県・郡スタッフと会議。2人のUNICEF職員がすでに現地入り。会議は新しい政策と県の年間計画を作成するためのもの。

13:45 パクセ到着。UNICEFの車が迎えにくる。果物を買うためにマーケットに寄る。車の中でちょっとしたランチを食べる。

これが
スケジュール

仕事のやりがいを感じるのはどんなときですか？

その国の政府が自分たちの提案にのっとって変化を決めたときや、現地に行ってプログラムが動いているのを目の当たりにしたときに感じます。また、政府が上手くいっていないことを正直に話してくれたときにも。それに、自分のスタッフがとても楽しんでやる気をみせて仕事をしているときは嬉しいですね。

12:30

ユニセフの現地事務所ってどんなところ？ スタッフはどんな仕事をしているの？ そんな疑問にお答えして、今回はラオス事務所駐在のクリフ・マイヤーズさんのある1日を追いながら、現地の事務所やスタッフの様子をお伝えします。

私の1日の
ルールです



8つの地域事務所と
126か国の現地事務所、
37のユニセフ国内委員会を
通じて、162の国または地域で
活動をしています。



7:35 オフィス到着。いつも早く
来ている水セクションの
チーフと打ち合わせ。

7:45 Eメールのチェック。
なるべく多く返事をする。
送る前にスペルチェックを
忘れないよう気をつける。

9:00 トレイの書類に目を通す。
スタッフより申請されて
いた政府提案を再検討し、
支援を許可する。

ドイツの映画スターの訪問に
ついての事務所内会議。

11:15 Eメールを再びチェック。現地
視察中の代理責任者を指名する
メールを全職員向けに発信する。

11:30 パクセでの会議のために空港に車で
向かう(出発まで30分しかない!)

6:00 起床

6:45 トースト・ヨーグルト・フルーツ・
緑茶の朝食を済ませる。

7:30 現地視察のための荷造り。
すべてが揃っているか確かめる。
妻にキスしてさよならする。

8:30 女子教育担当のスタッフと話を
する。午後の政府との会議で伝えることを確認。

8:45 ボスが部屋にやってくる。バンコクで行われる、「すべての
人の教育を」というUNESCOの会議に出席する政府職員の
費用を負担できるか質問される。要請のあった3人中2人の
職員参加について同意。

9:20 Eメールを再びチェック。す
でに事務所職員から8通の新
しいメール。素早く回答する。
スペルチェックなし。

9:30 EUからドナー代表団が会議
に来る。UNICEF支援の説明
をし、彼らの提案する新しい
プロジェクトに対する私のコ
メントを渡す。戦略変更をし
てもらいたい箇所について話
すときには丁寧な言葉を選ぶ
ように心がける。



飛行機が離陸(すごい! 30分しか遅れていない)
飛行機内の食事はパス。

開発途上国では、貧しい家庭の子どもがわずかなお金で労働力として買われていき、厳しい労働を強いられたり、虐待を受けたりしています。

ゆ、ゆるせな〜い!

いくら貧しいからって子どもを売るなんて…。連れていかれた子どもたちがどんな目にあうのか親はわかっているのかしら。

「トラフィッキングにNO!」の巻

ハイ、約束のお金です。
この子たちは連れていきますねえ!

2人は
売られました。

すまん…
ウチには
お金がないので
おまえたち
働いておくれ

①

お花はいりませんか…

センちゃんは重労働を、
プウちゃんは町で
花売りを
させられ
ました。

この重さ
はんばじゃ
ないよ〜

②

おまえたちはかせぎが少ないねえ
花が売れないなら、からだを売っておいで!

③

④ みなさん! この実態を知ってください!

搾取とひどい虐待をうける子どもたち。
心もからだもボロボロです。

センちゃんとプウちゃんは、
お芝居をとおして、このおそろしい実態を
知ってもらおうと考えたのでした。

センちゃん和プウちゃんが 演じた子どもたちには、 どんな権利が 関係あるのでしょうか…

子どもの権利条約

第9条「親と引き離されない権利」

子どもは親と一緒にくらす権利を持っています。ただし、それが子どもにとってよくない場合は、離れてくらすことも認められます。離れてくらす時も、会ったり連絡したりすることができます。

第11条「よその国に連れさられない権利」

国は、子どもがむりやり国の外に連れ出されたり、自分の国に戻れなくなったりしないようにしなければなりません。

第35条「ゆうかい・売買からの保護」

国は、子どもがゆうかいされたり、売り買いされたりすることのないように守らなければなりません。

※日本ユニセフ協会 訳



アグネス・チャン

日本ユニセフ協会大使が、カンボジアを視察しました。

日本ユニセフ協会大使アグネス・チャンさんが、2002年8月にアジアの子どもの人身売買の現状を視察するためにカンボジアを訪れ、人身売買の悲惨な現状を報告しました。

昼間に子どもたちの世話をする「デイ・ケア」や、帰る場所がない子どもたちを世話する「ロングターム・ケア」を行っている援助団体「グットー」で、ウエットちゃんという子どもに会いました。彼女は誘拐され、バンコクで

子どもと女性の人身売買(トラフィッキング)。現代世界には無縁とも思われるこの問題が、今や世界中の関心と呼ぶ深刻な問題となっています。

特に東南アジア地域における人身売買の現状は深刻で、例えば、子どもの商業的性的搾取は、大メコン地域(カンボジア、中国、ラオス、ミャンマー、ベトナム)で数十億ドル規模の産業へと発展しています。子どもたちや女性は買春、肉体労働、自らの意思に反した結婚、麻薬運搬人あるいは養子のために国境を越えて売られています。

国境を越えない人身売買も深刻で、自国内で売買またはさらわれて養子に出された子どもたちは、女の子であれば家内労働に従事し、男の子であれば工場や商店で仕事をさせられます。彼らは誘拐されたり強制的に連れていかれる場合もありますが、虐待や貧困から逃れるためにどんな運命が待ちかまえているかを知らずに自発的に出ていく場合もあります。

ユニセフの取り組み

ユニセフは、人身売買の防止およびコミュニティに戻った子どもと女性のリハビリテーションのためのプログラム開発などを行っています。

例えば、被害者とならないために子どもや女性が意識を高め知識を身につける活動を行ったり、危機的状態にある家族の支援、被害にあった子どものカウンセリング、子どもの権利に関して警察、入国管理者、司法関係者へのトレーニングなどを実施しています。

ベトナムの子どもたちを含めて9人で花売りやキャンディ売りをさせられました。20パーツのキャンディを300パーツになるまで売らなくてはならず、売れなかったらご飯はなく、電線の鞭で全身を打たれました。今彼女は、ユニセフも支援しているこの施設で保護されています。

自分の子どものサリーを売ってしまったお母さん。お母さんがサリーを売った理由は下の子が病気になり、お金がなかったからです。「自分の子どもが売られてどのような目に遭うかわからなかった。でもわかった今、もう二度と売ることはないだろう」。サリーはタイで売られた後、働いているところを見つかり、人身売買された子どもたちが保護される施設に入りました。今は心の傷を癒し、家に戻るようケアを受けています。

「アフリカ緊急募金」ご協力をお願い

アフリカ南部の6か国（ジンバブエ、マラウィ、ザンビア、モザンビーク、スワジランド、レソト）では、1,400万人以上の人々が、厳しい気候、たび重なる干ばつ、慢性的な栄養不良、政治的不安定、貧弱な社会基盤によって危機的状況にさらされています。干ばつによる食糧不足という事態に加え、この地域ではHIV/エイズの脅威が深刻化しており、働き盛りとなる年齢層（15～49歳）の約25%がすでにHIV/エイズに感染しています。特に感染率の高いジンバブエでは、人口の約33.7%がHIV/エイズに感染しており、13%もの子どもたちがHIV/エイズによって両親あるいは片親を失い、エイズ孤児となっています。食糧や生活必需品の不足が、多くの女性を性産業などHIV/エイズ感染の危険性の高い環境に追い込んでいます。

また、南部6か国の他、ソマリアやコートジボワールでは戦禍の恐怖に子どもたちは脅えています。ようやく平和が訪れたアンゴラでは、300万人が人道支援を必要としています。

強化される活動は、孤児や児童労働に従事する子どもの保護と人道支援、はしかの予防接種の実施とビタミンAの供給、貧血の原因とされる腸内寄生虫の駆除、コレラのコントロール、HIV/エイズに関する知識を高めるための教育活動、学校での給食や菜園・トイレの整備、安全な飲み水の提供などです。また、深刻な栄養不足に悩む子どもと女性に対する食糧支援、女性の暴力からの保護、子どもの栄養状態と小学校出席率のモニタリングを通じた状況分析も行われます。

食糧不足と栄養不良に苦しむ中、保健サービスを受けられず、学校に通うこともできないアフリカの子どもたち。子どもたちを救援するユニセフの緊急援助にご協力をお願いいたします。

募金送付先

郵便振替 00190-5-31000
加入者名義：財団法人日本ユニセフ協会
※通信欄に「アフリカ緊急募金」とご記入ください
※当協会への募金は寄付金控除の対象となります
インターネットからも募金を受け付けています
<http://www.unicef.or.jp>

おたより

報告会とチャリティーコンサート

おかやまコープ

おかやまコープでは、ユニセフ協会岡山県支部と協同で、「ネパール視察報告会」と募金のための「チャリティーコンサート」を企画・開催しました。



ユニセフスタディツアーのご案内

日本ユニセフ協会では、毎年生協の皆様を対象に、ユニセフの現地の活動を視察するスタディツアーを実施しています。詳しくは『全国組合員活動情報』1月号をご参照ください。

- ☐ 視 察 地 未定（アジア地域）
- ☐ 日 程 2003年9月頃 8泊9日（予定）
- ☐ 視察内容 ユニセフの女性支援事業、保健・栄養事業、教育・幼児ケア事業、給水・衛生事業など
- ☐ 参加費用 生協負担額1人あたり約30万円
- ☐ 申し込み 『全国組合員活動情報』4月号でご案内予定

■お問い合わせ （財）日本ユニセフ協会 協力事業部 林田
TEL 03-5789-2012/FAX 03-5789-2032
E-mail yhayashida@unicef.or.jp

ユニセフ*コープ ネットワーク



No.20【早春号】

2003年2月14日発行

編 集 グループ ぼく・ぼく

（生協組合員ボランティア）
スタッフ・編集／尾澤・谷村・浜崎・福本・
藤森・松本・山本・林田
イラスト／純沢

発 行 財団法人日本ユニセフ協会 協力事業部
〒108-8607
東京都港区高輪4-6-12

T E L 03-5789-2012

F A X 03-5789-2032

ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

編集後記

★エイズで両親を亡くした子どもが「エイズ孤児」と呼ばれています。西アフリカのある国では高い感染率から、18年後には国を背負う年代がいなくなると言われています。『ぼく・ぼく』でも最近エイズに関する記事が多くなりました。残念ですが子どもにとって住みづらい世界が続きます。ところで、毎年この時期になると生協の「お年玉募金」が話題になります。「募金」に取り組んでくださった全国の生協組合員の皆さん、ありがとうございました。（浜崎）
★ユニセフとのかかわりの中でいろいろな方たちとの出会いや嬉しいことが自分の暮らしの中

であふれています。みんなきっかけはそれぞれ違いますが、人とつながっていくのは嬉しいことです。元気で生き生きと子どもたちが暮らしているように、自分のできることを少しずつ今年もやっていきたいなと思います。（福本）
★今回より日本ユニセフ協会の編集担当として『ぼく・ぼく通信』と関わることになりました。アイデアたっぷり活躍してくださる生協の組合員ボランティアさんとともに、皆様の役に立つような誌面作りを行ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。ご意見や感想など、気軽にお寄せください！（林田）